

## 戦争とは何か 国際政治学の挑戦(中公新書)

### 第3章 担当 長井弘平 9.27

#### 1, 民主的平和論

・平和の条件を特定しようとする研究のうち、最も知られているのは民主主義という政治体制を重要視する議論である。democratic piece theory と呼ばれる。DP 論が意味するのは大まかには意志決定の権利が複数の人々、つまり人民とそれを代表する議会によって保持される共和制・民主主義体制が平和をつくるという旨である。

##### モナディック・デモクラティック・ピース

・民主主義国は交渉での解決を優先させるので、相手がどんな国でも戦争より交渉を好む。民主主義の文化や規範が重要な役割になっていると考えている。

##### ダイアディック・デモクラティック・ピース

・民主主義国同士であることが平和を生む出す。民主主義制度の定着度を要因に加えた。民主主義国同士では透明性がある程度確保されているので、情報の非対称性が低くなると考えられることも戦争が低くなる理論的な説明を与えている。さらに民主主義国では選挙を通じて働く観賞費用が戦争抑制のメカニズムとして働くとも考えられている。

#### ← 批判

・民主主義国同士の平和はアメリカの作った冷戦体制下での西側体制の間の平和の疑似相関なのではないか。つまり、アメリカの作った国際秩序が民主主義国の増加と平和の両方を説明できるのではないかという旨の反論がある。

#### 2、報道の自由と経済的相互依存

##### 報道の自由

・報道が自由な国では情報の非対称性が生まれにくいため戦争をしにくいという仮説が存在する。つまり、民主的平和論では報道の自由の疑似相関であるという指摘である。さらに似た仮説として事後的な情報公開などの透明性を担保する制度の有無が重要であるという研究が存在する。

##### 経済的相互依存

・2つの国が経済的に深くつながっているので、戦争ができないと依存関係を重視し、経済的相

互依存が民主主義国同士に見られるのではないかという主張がある。

しかし、ガーツキーの実証研究では貿易の依存関係は貿易相手の代替性が高いので、紛争に影響しないことがわかった。他方、直接投資は代替の利かないコストになるので、戦争を抑制することがわかった。(研究に対する様々な批判が存在するらしい)

### 3、国際制度の平和論

#### 集団安全保障

・集団安全保障とは相互に平和を約し、武力に訴えず国際関係を調整することを誓うものである。仮に戦争に訴えかけてくる国は存在するならば、一定の手順を踏まえて侵略行為と認定し、その認定を持って、国際連合やそのほかの同盟の加盟国全体で破壊行為を強制排除するという仕組みである。

この警察のような仕組みは戦争を抑制すると考えられていたが、脅威認定の意思決定が全会一致であるため大国の意思に大きく左右されるという問題が存在する。

#### 国連の PKO の科学的評価

・戦争の再起確率に国連の平和活動がどう関わるのかという研究が行われた。すると平和維持活動がある場合はない場合と比べて、戦争の再起確率を高めてしまうことが示された。しかし、[内生性の問題]があるのでないかという指摘も存在する。つまり、解決がしにくく、再起しやすい対立ほど国連は関与しやすいという指摘である。

さらなる研究によって、停戦合意がある場合で大規模な部隊派遣はない場合は監視団の効果は高いということと、大規模な部隊派遣でも停戦合意がある場合には戦争の再起確率を下げるということが示されたらしい。つまり、平和維持活動が情報の非対称性を緩和し、エスカレーションを予防するのではないかと考えられている。

#### まとめ

・平和の条件として民主主義同士の平和、報道の平和、制度的平和といった様々な議論とデータの裏付けがある。民主主義という政治体制が本当の要因なのかまたは疑似相関に過ぎないのかという議論があるが、唯一の決定要因はなく、複数の因果効果が存在することを意識することが必要。

## 議論したい点

- ・民主主義国の定義について

第二次世界大戦後では民主主義国を定義することは比較的簡単だと考えられるが、それ以前の時代だと議会があったり、選挙があるだけで民主主義国としているのではないかと考えられるが、質的に同じくくりにして良いのか？時代が違えば、人々を取り巻く環境が大きく異なるので、「民主主義」という制度の有無だけで区別できるのか。また、民主主義国の定義に偏見見たいなものは含まれていないのか。

- ・民主主義国同士というペアで確率を考えることに関して

民主主義国同士は戦争しないという命題を統計的に扱うときに、確率を二カ国にペアで考えなければならぬが、そうすると確率の分母が大きくなってしまう。そうすると分子の戦争の数が国のペアの数に比べてとても小さくなるので、戦争が起きるの偶然と結論付けても良いほどの小さい値になってしまう。

- ・民主主義などの政治制度以外の要因についてどの程度考慮したのか

戦争に関わるファクターとして地理的な距離や軍事力、同盟関係などの大きなファクターと比較すると、民主主義などの政治制度は誤差や疑似相関なのではないか。

- ・多変量解析は数学的にどのように行われるのか

自分で調べれば良いのですが、調べていません。すいません。